

赤木かん子さん

[児童文学評論家]

小さい頃から本を読むのが好きで、児童文学やミステリーの紹介と評論、図書館等での講演活動など幅広く活躍されている赤木かん子さん。最近図書館の改装や調べ学習の授業も行われており、その経験を通して思うところを率直に語っていただきました。

小学校で調べ学習の授業を担当

現在、私は小学校で「調べ学習」を教えています。きっかけは、ある学校の図書館改装を手がけたことでした。すべてが一からの作業で、改装には1年半を要しました。そして「やれやれ終わった」と思って振り向いた私の目に飛び込んできたのが、調べ学習を発表した模造紙でした。資料の出典が明記されていないなど、その内容の曖昧さに衝撃を受け、それを指摘したことで、調べ学習の授業を行うことになったのです。

しかし、当時の私には調べ学習を教えるノウハウがありませんでした。そこで、何が必要かを知るため、全体の構成を作ることから始めました。そうしてできたものを共同研究として、静岡の小学校5年生のクラスで実践。半年間で約30時間を“調べ学習の方法を学ぶための学習”にあてていただきました。

私がコンピュータツールの説明をし、インターネットは答えではなく、ネタを探すための道具だと教える。それを受けて先生が子どもたちに、実際にキーワードを入れてインターネット検索し、好きなテーマを探す作業をやらせる。このように、私が基礎を教えたら、その月の後半に先生が応用問題をやる形で授業を進めました。

そうして完成させた私の調べ学習のカリキュラムは全部で36時間ほど。これを1学年でやるのは時間的に無理なので、実践結果をもとに、どの学年で

何ができ、何をすべきかを考え、段階分けしました。1年生は目次と索引と百科辞典、2年生はテーマの決め方初級編、3年生はテーマの決め方中級編と、人に話を聞くにはどうすればいいかなどの戦略を立てる、という具合です。

勉強の第一歩は定義づけ

勉強する時に最初にやらなければいけないのは、「定義を探すこと」です。私は今、「定義」という言葉を1年生から教えています。1年生には難しいのでは？と思うかもしれませんが、でも、そう思うのは大人だけ。「定義とは意味を決めることだ」と言えば、子どもは「そうなんだ」と理解します。同じように、たとえば「捏造」という言葉だったら「何も無いところでっちあげる」と説明すれば3年生でも納得するんです。

大人は、言葉の難しさを文字面で判断しがちです。でも、小さい子どもの場合、抽象言語はわからなくても、具象言語はわかります。だから、抽象言語を具象言語に取り替えられれば理解できます。1対1に対応させられれば、たいていものは理解します。要は、これ以上ないところまでものごとを分解できればいいのです。

学校の授業を見ていると、基礎となる定義や分類を教えず、問題はこうやって解くんだと、場当たり式に指導しているのを見かけますが、逆にそれは難しい。基礎を教えないで応用だけ教えたら、自分で考えることはできなくなってしまうでしょう。それは本当

の勉強にはならない。たとえば足し算をやるなら「足し算とは何か」から、市役所の仕事を調べるなら「市役所の定義とは何か」から始めることが大事なのです。「定義」と、あと2つ「何のために?」「だれのために?」も必要なきもありませんね。

図書館を十分に活用してください

さて、勉強の第一歩が定義づけと言いましたが、定義を調べるにはどうしたらよいのでしょうか？

その答えは「図書館を活用する」です。

図書館は、今まで人類が作ったり、考えたりしたことを収集、分類、分析、研究、保存し、還元してくれる学術機関です。この中で子どもたちが最初に出会うのが学校図書館で、情報を得るための機関として、子どもたちの生活を支える役目を持っています。ですから、学校図書館には文学作品だけではなく、子どもたちに役立つ本やDVDや地図などがあることが重要です。

でも、たとえ役に立つ、使える図書館があっても、本や図書館の使い方を知らないことにはどうしようもありません。これを教えない限り、子どもたちは勉強ができるようになりません。勉強するには、まず本の使い方と、司書の役割を含めた図書館の使い方をマスターしなければいけないのです。しかし、それは図書館情報学をきちんと学んだ人でないと教えられません。地域の公共図書館の司書に授業をお願いするなど、時には学外のプロの力を借りてください。

PROFILE

あかぎ・かんこ ●長野県生まれ。法政大学文学部英文学科卒業。1984年に、子どもの頃に読んでタイトルや作者名を忘れてしまった本を探し出す「本の探偵」としてデビュー。以来、子どもの本や文化の紹介、ミステリーの紹介・書評などで活躍するとともに、最近是小中学校の図書館改装に携わっている。著書は『調べ学習の基礎の基礎』（ポプラ社）、『読書力アップ！学校図書館のつくり方』（光村図書出版）他多数。

定義を決めないことには どんな勉強も次の段階には進めない